

# 四季報 草原灌漑

草原における環境保全型節水灌漑モデル事業 ニュースレター

Vol.4

2008年11月発行

## ニュースレターVol.4 発行

本ニュースレターは「草原における環境保全型節水灌漑モデル事業」で行った活動について、広く関係者の皆様にお知らせすることを目的として、4半期に一回発行しています。

このプロジェクトは2007年6月1日より開始され、主要なC/Pとして中国灌漑排水発展センター（水利部所管）及び、内モンゴル自治区杭錦旗、新疆ウイグル自治区木垒県の現地サイトにて活動しています。

## ○最近の活動内容・出来事

### ・新疆ウイグル自治区木垒県モデルサイトにおける実証試験圃場の確認（7月15～18日）



新疆ウイグル自治区木垒県における実証圃場は大規模圃場の中に設定しており、実証試験及び実証圃場の管理は県水利局の下部組織である水利ステーション管理人と牧民の中から選ばれた用水戸協会の担当者が実施しています。実証試験は日本人専門家が作成した計画書に基づいて実施されていますが県水利局が中心となって組織したモニタリングチームが管理人及び用水戸協会を指導しています。

また、これまで県水利局は2回の灌漑実績の報告を送付するなど、積極的に実証試験に参加しています。今年の新疆ウイグル自治区は大干ばつということで、前回5月の出張時に比べ地域全体が緑色から茶色に変化しており相当乾燥状態であることがわかります。このため灌漑においても十分な水量が確保できないということから、7月以降の実証試験を断念せざるを得ない状況になり7月の段階で今年度の実証試験を終了し刈り取りを行い、データの収集整理を行っています。

また、新疆定住化プロジェクト専門家と打ち合わせを行い、両プロジェクトが連携した研修の実施について検討を行いました。



(写真上：アルファルファと麦の混栽状況、  
下：牧民との意見交換)

・内モンゴル自治区杭錦旗モデルサイトにおける実証試験圃場の確認(7月28日～31日)



内モンゴル自治区杭錦旗において実証試験実施中の2回目の現地調査を行いました。今年は雨がそれなりに降っており、量的には平年と変わらないのですが、灌漑時期前に降水があることにより、今年はあまり灌漑施設による灌漑を行っていないとのことでした。そのため実証圃場・対象圃場それぞれの作物にも大きく生育状況が変わったところはなく、順調に生育していました。

今回の実証試験の調査項目の一つである土水路の流量測定を行いました。現在データの整理中ですが、土の粒子が細かく、予想以上に送水損失は少ないように感じられました。



現時点での実証試験のデータについて収集を行いました。前回の出張時にはデータ収集の体制が不十分であったものが、今回はC/Pも体制を拡充しており、今後もこの体制でデータ収集を行うよう指導しました。

また、現地C/Pと次年度の実証調査の拡充に向け、新たな試験圃場の設置の検討を行いました。候補地は杭錦旗水務局所在地より40kmに位置していますが、管理人が専従で管理している圃場であり、実証試験を行うのに適当な圃場と思われます。

(写真上：作物伸長測定、  
写真下：三角堰による土水路流量測定)

・新疆ウイグル自治区牧区水利建設研修会への参加(8月4～7日)



(写真：研修会で発表する東専門家)

新疆ウイグル自治区水利庁と共同で伊犁州において自治区内の各県水利局担当者を招集して草原灌漑をメインテーマとした牧区水利建設に関する研修会を行いました。

研修会では灌漑排水発展センターや水利部牧区水利科学院から牧区建設についての講義や新疆ウイグル自治区内各水利局からの事例発表などが行われました。

本プロジェクトからも専門家がプロジェクトの内容・進捗状況について説明するとともに、今年度の新疆ウイグル自治区木垒県での実証調査の速報について説明を行いました。

## ・新疆定住化プロジェクトとの連携への取組（8月7日）

本プロジェクトでは節水灌漑により草原の劣化を防ぐこととしていますが、その一方で人工草地における効率的な営農ができなければ十分な目標は達成できません。しかしながら本プロジェクトには営農分野の専門家がないことから、本プロジェクトと同時期に始まった新疆定住化プロジェクトと連携し、当該プロジェクトの営農専門家及び新疆農業大学の教授を講師として木垒県地元郷鎮政府担当者、牧民を対象に営農研修を実施すべく調整を進めました。

この研修で使用する研修資料やこの研修成果をもとに作成する資料については今後普及が可能となるような形に編集し、研修マニュアルの一環として位置づけることを検討しています。

## ・新疆ウイグル自治区木垒県プロジェクトサイトにおける営農研修の実施（9月16～19日）



新疆ウイグル自治区木垒県のプロジェクトサイトにおいて上記の新疆定住化プロジェクトとの連携の具現化として地元水利局、郷鎮政府、牧民を対象とした営農研修を行いました。

本地区では今年より本格的な実証試験を開始しましたが、牧民の営農技術が低く営農に対する研修の要望がでていました。当地での栽培飼料作物は主にアルファルファですが、今回はこの飼料作物についての講義を行いました。研修講師は新疆定住化プロジェクトの千葉専門家及び新疆定住化プロジェクトからの紹介による新疆農業大学のアイビブラ教授に行ってもらいました。

今回の研修は牧民からの評判も良く、おおむね成功と考えますが、一方で問題点として当地の牧民はカザフ語を使用し、漢語をあまり理解できないため、水利局等の地方政府と同時に活動を行う際には意思疎通がスムーズにできない状況でした。今回はアイビブラ教授がカザフ語を話すことができるため、研修は滞りなく進みましたが、今後さらなるプロジェクト実施の際には障害となる可能性があるため検討が必要です。また、郷鎮政府の職員に聞くと牧民も一部の牧民はやる気がありますが、大多数はあまり栽培に興味がないということであり、今後どのようにプロジェクトに引き込むかが課題です。

来年度の実証試験ではアイビブラ教授協力のもと営農試験についても実施することを検討しており、今後中国側と調整を行うこととしています。上記のやる気のある牧民は実証試験にも参加したい旨を表明しています。また、郷鎮政府の鎮長も飼料作物栽培の拡大を望んでおり、プロジェクトを動かすために積極的に参加してもらう必要があります。

(写真上：研修会で発表するアイビブラ教授)

・木垒県プロジェクトサイトにおける学校との連携について（9月16～19日）



（教員への資料の説明会）

プロジェクトの広報活動の一環としてプロジェクトサイトにあるカザフ族の学校に対し、中国の草原についての状況や本プロジェクトの活動内容等の出前学習を行うことについて説明会をおこないました。説明は学校の会議室で行いましたが、学校側からは授業中にも関わらず、10名ほどの教員が参加し、当方の趣旨について耳を傾けてもらいました。今回当方から開催の意図と資料の簡単な説明を行いました。今後学校側でどのような実施方法とするか検討を行うこととしました。

・雲南省において牧区建設に関する全国研修を実施（10月8～10日）



雲南省昆明において牧区建設に関する研修会を実施しました。今回プロジェクトからの発表は行いませんでしたが、灌漑排水発展センターの副主任を始め、各自治区から草原保護の取り組みについての報告が行われました。

参加者は全国各省・自治区の水利庁から約100名程度が参加しており、各発表を熱心に聞いていました。

今後、プロジェクトの成果を取りまとめ、このような会議を利用してプロジェクトの成果についても発表できるよう、C/Pと調整していきたいと考えています。

編集後記：

実証試験を進める中、内モンゴル自治区では降雨があり、一方新疆ウイグル自治区では50年に一度の干ばつが発生しているとのことで、中国の大きさを再認識したところです。特に新疆ウイグル自治区については5月に訪問した時と比べ風景全体的に緑から茶色に変色しているのには驚き、これらの要因から砂漠化が進んでいるのかとも感じました。今後の人工草地施設の普及が、こういった荒廃のスピードの歯止めになればと考えています。

プロジェクト所在地

北京市宣武区广安門南街60号 榮寧園3号楼 中国灌漑排水発展中心日本専門家室

Tel : +86-10-6320-3380、FAX : +86-10-6320-3376 e-mail : taka316318@hotmail.co.jp

担当：東 崇史